フィールド（現場）からの風 646

宮田守男

地域が求められている

一人暮らしでも安心できる

朝晩の冷え込みがやわらいで、ほとんど霜が降りないとされる七十二候では「霜止出苗（しもやみてなえいずる）」。10月下旬の二十四節気「霜降（そうこう）」まで霜が降りないとされることから「別れ霜」という別名もあるが、今年は残雪も多く「忘れ霜」が多発して農産物への影響が心配になる。

多くの企業で新社会人が初めて給料を受け取る日、別名「ファーストペイデー」だが、初任給を現金で受け取った昔が懐かしい。

年金生活者は税金・国民健康保険料・介護保険料などが差引かれて、金融機関に振り込まれ支給された金額で生活しなくてはと考える人も多く高齢者世帯の貧困が問題化している。

国立社会保障・人口問題研究所は、2020年の国勢調査に基づき、団塊世代が75歳以上となる50年までの世帯数の将来推計を公表。単身世帯の割合は27都道府県で4割超となると予測。未婚世帯の増加や少子化が要因で、医療や介護など高齢者の生活を支える体制作りが急務だ。高齢者が一人暮らしでも安心して暮らせる支援態勢が整った地域を求める課題に直面するのだろうか。

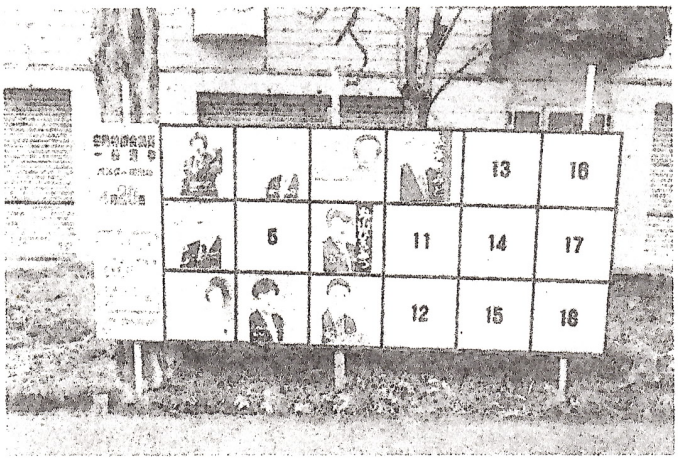
今年は1947年から3年間の「第1次ベビーブーム」に生まれた団塊の世代が全員75歳以上の後期高齢者となり、高齢化が一層進むことから「2025年問題」と呼ばれた年になった。

総務省は2024年10月1日時点の人口推計で、日本人人口は過去最大の落ち込みの89万8000人減。人口の少ない県の人口を上回る現象が毎年続いている。この異常な事態に対して地域を発展・継続するためには思い切った施策変革も必要だとの認識を強く抱き続けるべきなのだろう。

中旬大町市内で開催された県内22チームが参加した北信越壮年ソフトボール大会長野県大会の審判員の要請があり、桜咲くグランドで選手の皆さんの熱戦を見る機会に恵まれる。

中学生たちの生活記録集でベストセラーとなった「山びこ学校」の編者で僧侶・教育評論家の無着成恭さんの著書「忸怩戒（じくじかい）」で「花は散るからいとおしい　人は死ぬからいとおしい」とつくづく思うようになったと述懐している。大切な思い出を心の中で、ますます輝きを増していく日々を過ごしていきたいと思う暮らしをしたいものだ。

（信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上）



民主主義への挑戦と思われる事例が多発する選挙ポスター掲示板が本当に必要なのか問われている。